

林業実践塾 森づくり除伐作業

平成25年 第29号掲載

南区常盤除雪センターから車で7分くらいの支笏湖への観光道路が走る風景林、エンジュダイラ石山国有林1193班わ小班で昭和51年に植栽したトマツの成長の邪魔になっている雑木やつる類を取り除き、十分な空間と太陽をあてることが目的。

チェンソーで受け口と追い口をつける作業を皆で確認してから作業開始です。エンジン式チェンソー3台、腰ノコ、腰ナタ、トビ、クサビ、ロープ、スコップなどを持ち込んでの本物の林業作業を、14人で3時間行い、約50本除伐しました。

「ボランティアなんて所詮自己満足にすぎない」と言われたことがあります。木のざわめきを聞いたことがあるのか、松やにの匂いを知っているのか、チェンソーの振動がわかるか、ここで食べるおにぎりの味が格別なことを知っているのか。

作業が一段落ついて、すっきりした森の状況に満足感が漂ったこの笑顔は真実です。

こういう本格的な作業をできる団体ってそうざらには無いと思っています。即席でできるものでもありません。会の歩みを長く続けて達成した領域です。私たちの会の希少性がそこにあります。

(大和谷 正人)

ツリークライミング

平成24年 第27号掲載

平成23年春、ツリークライミングをしませんか？との誘いで林福太郎さんの紹介で講習会を受講しました。”鳥のように木の上から眺めたい””もう一度木に登りたい”をモットーにお老も若きも性別やハンデに関係なく、誰でも楽しむことができ、樹上でしか味わえないすばらしい時間を、一人でも多くの人に感じてもらい、安全に木に登ってもらうための講習会でした。

いざ実技へ、基本はロープと付属のサドル、カラナビ、ヘルメット、ロープロックの結びが出来なければ登れない、危険がつきもの。これがなかなかのくせ者で難しい。いくらやってもうまく結べない。理屈はわかっていても実際はままたらぬ。木の選別から、ロープを枝にかけろラインで何度も訓練をかさね、最後に一番いやなペーパーテスト。

いざ実践、初舞台は駒岡小学校・こまおかの森。いでたちは一人前。恥ずかしながら、肝心のロープ結びはやはりうまくいかない。講師と林さんに教えられながら、なんとかスタンバイ。さすが子どもたちは、猿のようにスルスルとお見事。作年秋にNHKのテレビ取材があり、カメラマンやライターも挑戦するも、やはり皆へたくそで我々と同じ。いろいろありましたが、突然、林さんの訃報が飛び込んできてびっくり、あんなに元気でにこやかにテレビに映っていたのに……。心からご冥福をお祈り申し上げます。

(山西 良邦)

「森に遊び、森に学ぶ」森林環境教育

平成24年 第28号掲載

平成17年度から北海道森の学校推進事業がスタートして以来、藤の沢小学校・小鳥の村の「げんきの森」づくり、駒岡小学校・こまおかの森の「げんきな森」づくりと、毎年継続して「学校林を活用した森林環境教育」の推進事業に参加協力していますが、今年度から、はさらに簾舞小学校の樹林帯の環境整備の支援にも取り組んでいます。

平成24年度は、藤の沢小学校のエゾヤマザクラ、アオダモ、トチノキなど計55本、駒岡小学校の樹林帯にはエゾヤマザクラ、ブナ、ヤチダモなど計63本、簾舞小学校の樹林帯にはエゾヤマザクラ、エゾエノキ、ハルニレなど計50本の植樹も実施しました。

森の観察、木々の知識、地拵え、植樹、下草刈り手入れなど、環境保全整備全般を体験しながら、のびのびと自然の野外環境の中で勉強している子どもたちは一様に明るく、元気に目を輝かせて活動している様子は一緒にお手伝いしていても、頼もしく健康的で気持ちよいものです。

対象とする学校林は年々整備域が拡大され、スタート当初とは比較にならないほど様変わりした環境変化の実態に何とも言えぬ達成感を覚えるとともに、今後の維持管理の重要性も感じています。

(城地 英夫)

伐木作業安全講習会を受講して

平成23年 第26号掲載

地拵えや伐木時には時々チェンソーを使って作業をしていた。それも見よう見まねで操作していたから能率が上がらず、そのための焦りと怪我に対する恐怖心が常にあった。

そんな折に4月2日「石山エンジュダイラ伐木作業」に一山邦夫氏を講師として「チェンソー作業安全講習会」が開催された。講師は元営林署に勤務され道内各地でチェンソー研修講師をされてきた方である。

現役の頃は、振動障害による白蠟病などで職務としては随分辛い時代があったのではないかと推測しながら受講する。名調子ではないが、わかりやすい言葉で、時にはユーモアや体験談も交えていただき、老化した脳にもすんなりと退屈することもなく久しぶりに勉強した思いでした。また、実践研修で、チェンオイル、チェンの張り、突っ込み切りを理解できたことは大きな収穫でした。

研修終了後、思ったのは「機械は構造を知り操作を誤らなければ、作業能率を上げ安全」であること。このことは機械全般に当てはまることだと再認識させられました。これからは、機械に能力以上のことを求めず、緊張と親しみを持って技術向上に努めていきたい。少し自信を得た講習会でした。そして感謝、感謝の一日でした。

(佐藤 敏)



♪さくら さくら 弥生の空にと歌われるサクラは国歌として広く愛好されています。材は器具や細工物に、樹皮は咳止め薬に、塩づけした葉は桜餅に、花は桜湯にして、お湯に浮かぶ花を愛でたり、香りを楽しむなど日本人にとって最も親しまれている花です。梅やモモは中国から伝来したのですが、桜は日本に自生し、種々な品種が作られてきました。サトザクラ(ヤマザクラ)は、栽培される園芸品種の総称で、300種位もあるそうです。代表的な品種には、関山、白妙、普賢象などがあり、花の色は淡紅色、白色、緑黄などがあります。ニースで桜前線が話題になると、いよいよ春本番かと浮き浮きしてきます。昨年、お友達に誘われて西区の緑道公園にお花見に行ってきました。園内には満開のサクラが良い香りを漂わせ、優美に咲いていました。初めて見る淡い御衣着黄桜は、控え目に俯き加減に咲いていました。

今年はどこへお花見に行きましようか。

里桜(第27号)



花が咲き終わると5センチ程のサヤに5ミリ位のかわりらしい種ができます。その小さな種を数つぶ浜辺よりもってきて庭に植えてみました。翌年の6月頃にあちこちへ地下茎を伸ばして、蝶のような形をした美しい色彩の花を咲かせ、私達の目を十分に楽しませてくれました。以来、毎年楽しんでおります。

ハマエンドウ(第26号)

もりのとも
表紙絵美術館
(ボタニカルアート)
浦嶋 好江